

もしれません。軟泥に片足を突っ込み、網を伸ばして捕まえると、正体はマサゴハゼでした。軟泥が怖いですが、ビリンゴを求めてより奥へ。やや深い溜まりでやっと捕まえることが出来ました。

ここで父が上流側にもっと良さそうな場所[写真 4]を見つけ、そちらへ移動することに。そこは、砂〜砂泥程度の底質で、先程の場所とずいぶん環境が異なりました。また、本流と干潟の溜まりを繋ぐいわゆる滞筋で、ちょうど潮が満ち始めたタイミングだったので、干潟の方へ向けて水が流れていました。本流から新鮮な水が流れ込むというタイミングが良かったのか、たくさんの個体が網に入りました。こちらでは、ビリンゴ、チクゼンハゼ、クボハゼ、エドハゼ、ヒモハゼ、ツマグロスジハゼなどのハゼの仲間や、イシガレイ、スズキ、ボラなどの稚魚が顔を見せてくれました。な



▲写真4：より良い干潟

んと、関西では馴染みのなかったエドハゼが捕れました。お馴染みのチクゼンやクボが捕れる中、明らかに異なるハゼが混じり、何だこれ！？とよく見てみると、ちょうど去年に関東で見たエドハゼでびっくり。要領を得ると、比較的柔らかい砂泥を狙えばエドやクボ、硬めの砂泥を狙えばチクゼンがよく捕れるということも分かってきました。しかし、なんせ馴染みない種ですから、少し雰囲気が違う個体が捕れると、本当にエドハゼか？他に別の種も混じっているのでは？と疑い出し、よく分からなくなってしまいました。ここで脳裏にキセルハゼという種が浮かびました。キセルハゼとは、エド、クボ、チクゼンと同じくウキゴリ属の干潟に生息するハゼで、未だ手にしたことが無い魚です。関西にも生息しているらしく、図鑑で見る度に捕まえてみたいなあと思っていました。もしかしてキセルも混じっているんじゃないか？！

そんなこんなで潮がかなり満ちてきたので採集を終え、いつものように撮影タイムです。よく分からない個体は観察ケースに入れてじっくり観察しました。ビリンゴはやはりコロッとした個体[写真 5]が多く捕れましたが、中にはスマートな個体[写真 6]もいて、より謎が深まってしまいました。個体差の



▲写真5：ビリンゴ(ころっとした個体)



▲写真6：ビリンゴ(スマートな個体)